

親のひとことが
島根へ帰る
きっかけでした。

ずっと都会で暮らしていくんだと思ってた。
華やかな街、満員電車やハードな仕事も
「イケてる」って思ってた。

でも最近、喧騒の中で
自分が埋もれてしまいうるな気がする。
そんな時、地元のアイツがちよっと羨ましくなった。

そう言えば、就職が決まったとき、
親は少し寂しそうに喜んでくれたっけ。

話してみようかな。
これからのこと。



こちらにスマホを
置いてご覧ください。

白枠にある二次元コードにアクセスして、そこにスマートフォンを置いてご覧ください。

あの子のひとは
「帰ってもいいかな」の
サインです。

都会にいるあの子。
素っ気ない返事は
「元気だよ」のサインかな。

大学の合格発表、就職の内定。
うれしくて、でも少し寂しくて。
精一杯の笑顔で送り出した。

夕べのあの子からのメッセージ。
こっちの友だちの話なんかして。
どうしたんだろう。

今度は伝えてみようかな。私の気持ち。



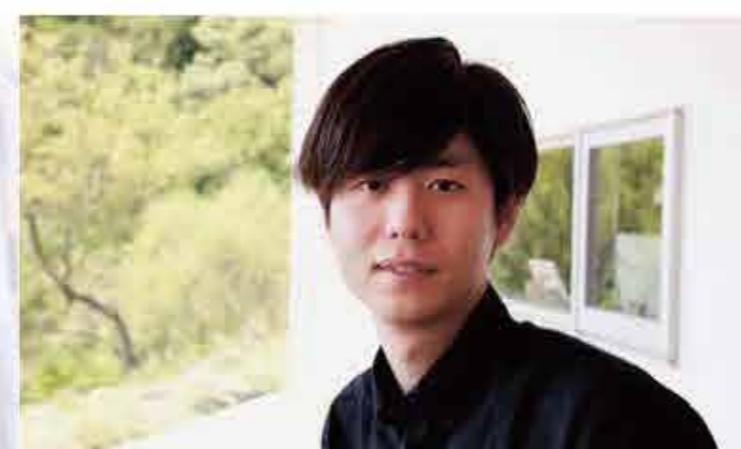
こちらにスマホを
置いてご覧ください。

Uターンした人に聞いてみた 島根にUターンするきっかけとなった 家族とのエピソードを教えてください

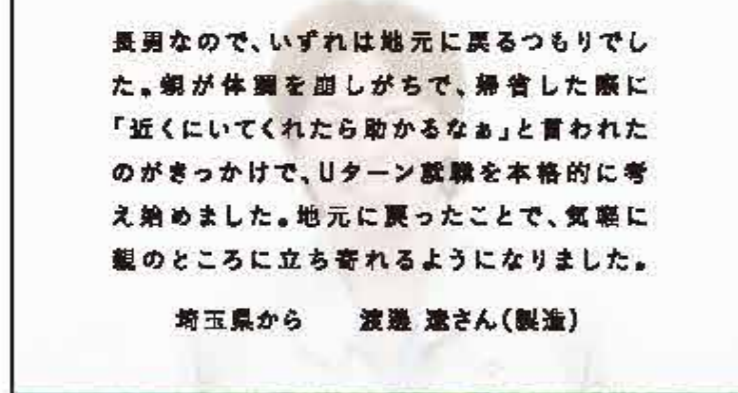
2020年度は、2,144人の方が島根にUターンしました。「愛着のある故郷で充実した暮らしを実現したい」「地元をみんなで盛り上げたい」。理由は様々ですが、地元の家族からの一言がきっかけとなった方もたくさんいます。親子や家族で話してみませんか。これからの「自分のこと」「家族のこと」「ふるさとのこと」



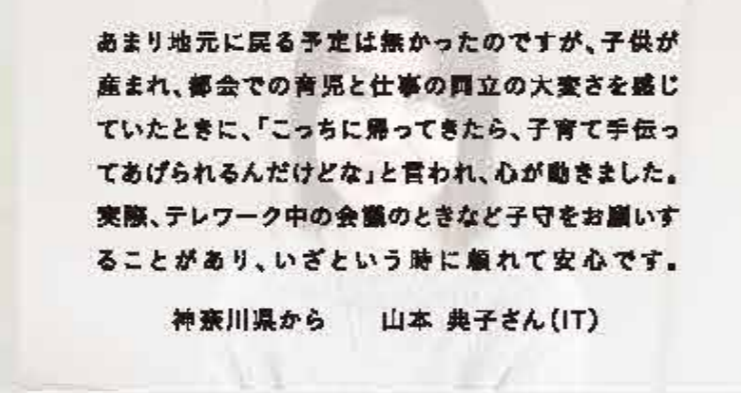
東京でアパレル関係の仕事をしていました。地元に戻るとは思っていませんでした。ある時偶然に、母親から言われた「都合が悪いのも分かるけど、島根に帰っても新しい生活はできると思うよ？無理じゃないでしょ！自分次第でしょ！」の言葉が、Uターンを本格的に考えるきっかけになりました。
東京都から 佐藤 麻衣さん(アパレル)



近年、海外企業を中心に就職活動をしていましたが、両親から「いずれは地元に戻ってほしい」と言われ、地元就職を考えたんです。そんな中、近所にあるある飲食店を目的に訪れて、このままではいけないと思い、就職を決めました。今は、行先不明の覚悟を置いて、地域貢献の観点から地元就職できていることにやりがいを感じています。
山口県から 藤山 真生さん(コンサルタント)



長男なので、いずれは地元に戻るつもりでした。親が体調を崩しながら、働き始めた際に「近くにくれば助かるな」と言われたのがきっかけで、Uターン就職を本格的に考え始めました。地元に戻ったことで、実家にいると立ち回れるようになりました。
埼玉県から 渡邊 謙さん(製造)



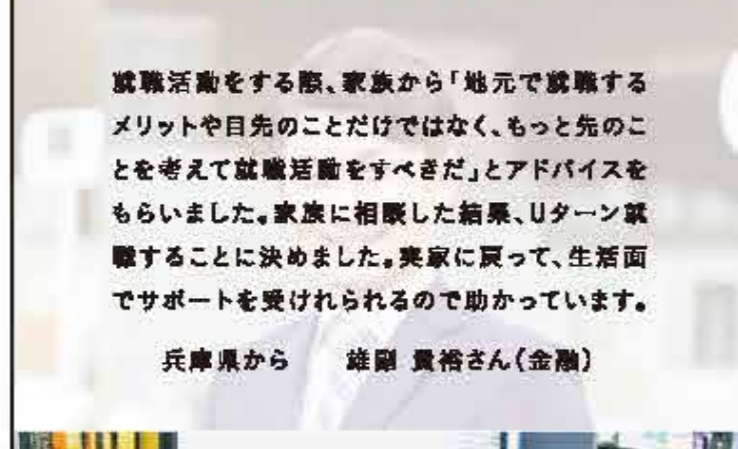
あまり地元に戻る予定はなかったのですが、子供が高卒で、都合での育児と仕事の両立の大変さを感じていたときに、「こっちに帰ってきたら、子育て手助けしてくれるんだよね」と言われ、心が動きました。実際、テレワーク中の会議のときなど子守をお願いすることがあり、いざという時に頼られて安心です。
神奈川県から 山本 典子さん(IT)



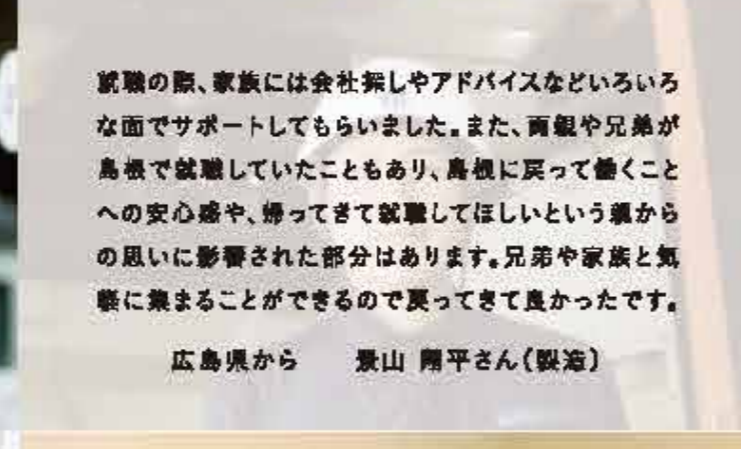
進学した大阪で就職しようか迷っている中、父から言われた「帰ってほしいな〜」の一言で地元就職を決めました。今は、言葉に聞かれたゆとりのある環境で働けており、自分のペースで充実している。地元就職して良かったと思っています。
大阪府から 森川 くるみさん(建設)



大阪の大学に進学していたので、就職活動の際は、海側に地元企業の情報があったという新聞紙面の切り抜きをもらったり、色々サポートしてもらいました。地元のメーカーや生産者の情報と仕事をしていると、島根に就職できていることを実感し、やりがいを感じます。
大阪府から 清水 晴花さん(小売)



就職活動をする際、家族から「地元で就職するメリットやデメリットだけでなく、もっと良いことを考えて就職活動すべきだ」とアドバイスももらいました。家族に相談した結果、Uターン就職することに決めました。実家に戻って、生活面でサポートを受けられるのが助かっています。
兵庫県から 藤原 貴裕さん(金融)



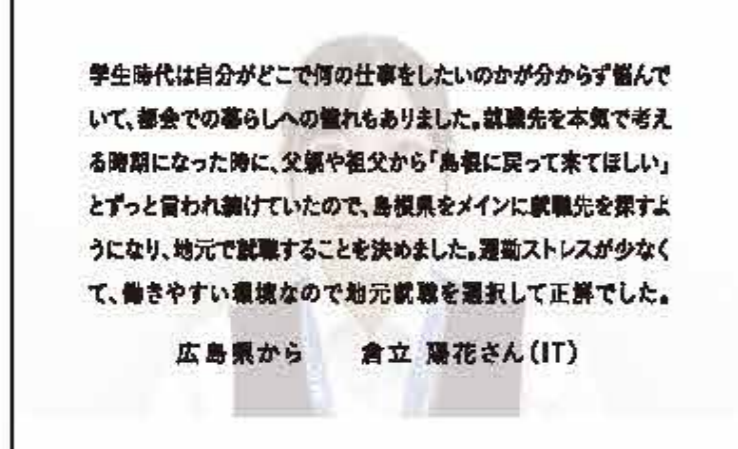
就職の際、家族には会社見学やアドバイスなどいろいろなサポートしてもらいました。また、両親や兄弟が島根で就職していたこともあり、島根に帰って働くことへの安心感や、帰って就職してほしいという親からの思いに影響された部分があります。兄弟や家族と気軽に話せることができたので戻って良かったです。
広島県から 栗山 陽平さん(製造)



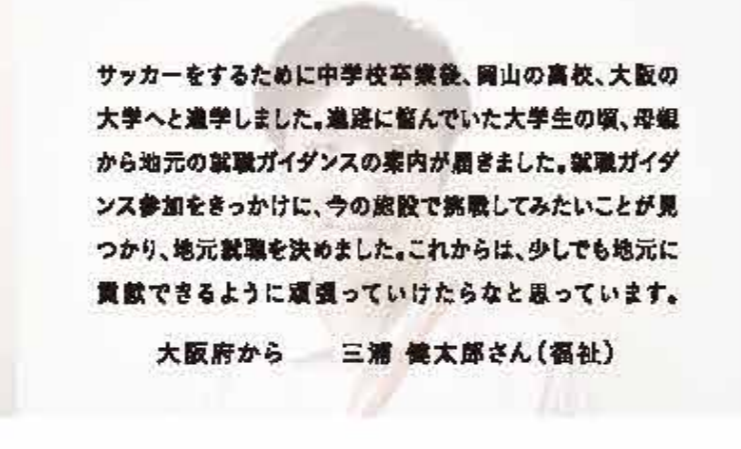
神戸の大学に進学し、最初は関西圏の企業を中心に就活していました。リクナビ、マイナビで企業を探している中、親から「できれば島根で就職が決まったら嬉しい」と言われ、島根の企業もチェックするようになり、地元就職への気持ちが強まりました。都合と比べて実家などの生活費が安く済むので地元就職で良かったと思います。
兵庫県から 林 裕希さん(製紙)



真面目で真しだった父親のもとで育ち、遅れたくて海外に志望しましたが、父親が納得して、母親一人になり、帰国行きたいという思いが湧き、島根にUターンしました。母と出逢って、ご近所付き合いが多く、人の輪が温かいと感じます。
鳥取県から 太田 博樹さん(飲食)



学生時代は自分がどこで何の仕事をしたのかが分からず悩んでいて、借金での暮らしへの疲れもありました。就職先を本気で考える時期になった時に、父親や祖父から「島根に戻ってほしい」とずっと言われていたのが、島根県をメインに就職活動をするようになり、地元で就職することを決めました。通勤ストレスが少なく、働きやすい環境なので地元就職を断ることはしていません。
広島県から 倉立 陽花さん(IT)



サッカーをするために中学校卒業後、岡山の高校、大阪の大学へと進学しました。進路に悩んでいた大学生の頃、母親から地元就職の誘いの声がありました。就職ガイダンス参加をきっかけに、今の就職で働かせてくれたことがきっかけで、地元就職を決めました。これからは、少しでも地元で就職できるように頑張っていきたいと思っています。
大阪府から 三浦 健太郎さん(製紙)



東京都から
小笠原 久美さん(アパレル)

「近くにいてほしい」という親からの言葉、子供の存在が島根に戻る決め手でした。
娘から「二歳に生まなくていいから、近くにいてほしいな」と言われていたので、いずれは帰ろうと思いつきながら、東京で働いていました。その後、子どもが産まれたことで、自然と近くにあり、虫や魚などの生き物を身近に感じることもできる島根で子育てがしたいと思い、Uターンしました。休日は、海にシーグラスを採りに行ったり、釣りを楽しんだりのんびり子育てをしています。
子どもが産まれたとき「こっちは、空き家とかキレイな中古住宅がたくさんあるぞ〜」と、親からの後押しがありました。笑



東京都から
持田 悠助さん(飲食)

「親孝行できればな」という想いと、何気ない親との会話が帰るきっかけに。
もともと自分がやりたいことに対して親から口出しされることはなく、自由をやっていたので、これからは少しは親孝行できればなと思っていました。何気ない会話の中で「島根でも商売できるんじゃない？」という話になり、地元Uターンもありかなと思うようになりました。
東京で車を所有すると、毎月の固定費がかなりかかるので、趣味のサーフィンにはなかなか行けません。今は、自家消費で毎月サーフィンに行っています。最高です！

公益財団法人 Uターン・Iターンを応援します <https://www.teiju.or.jp> TEL:0852-28-0690
ふるさと島根定住財団 県外のふるさと定住・雇用情報コーナー
 東京 TEL:0120-60-2357 大阪 TEL:0120-70-2357 広島 TEL:0800-100-6435

くらしまわっと 社会人の方々のUターン・Iターンを応援しています。
 Job Cafe 学生さんの就職活動を応援しています。
 いっけん、島根県 島根県内の「心強い」お役立ち情報を紹介しています。
 島根県地域振興部しまね暮らし推進課 12月31日16:45から放送！

この紙面のお問い合わせ先
島根県地域振興部しまね暮らし推進課 TEL:0852-22-5068

島根Uターン紙面 親のひとことがきっかけでした。

島根Uターン紙面の意図について

若者の人口流出という課題に対し、これまでとは少し手法を変え、都市部で暮らす若い世代の視点と、地元島根で暮らす親世代の視点 という、それぞれ立ち位置の異なる2つの方向へ2本のムービーでメッセージを発信するという広告を制作しました。

また、2021年12月30日の新聞広告では、実際に、親から子へのひとことがきっかけでUターンした方々を紹介し、掲載しました。

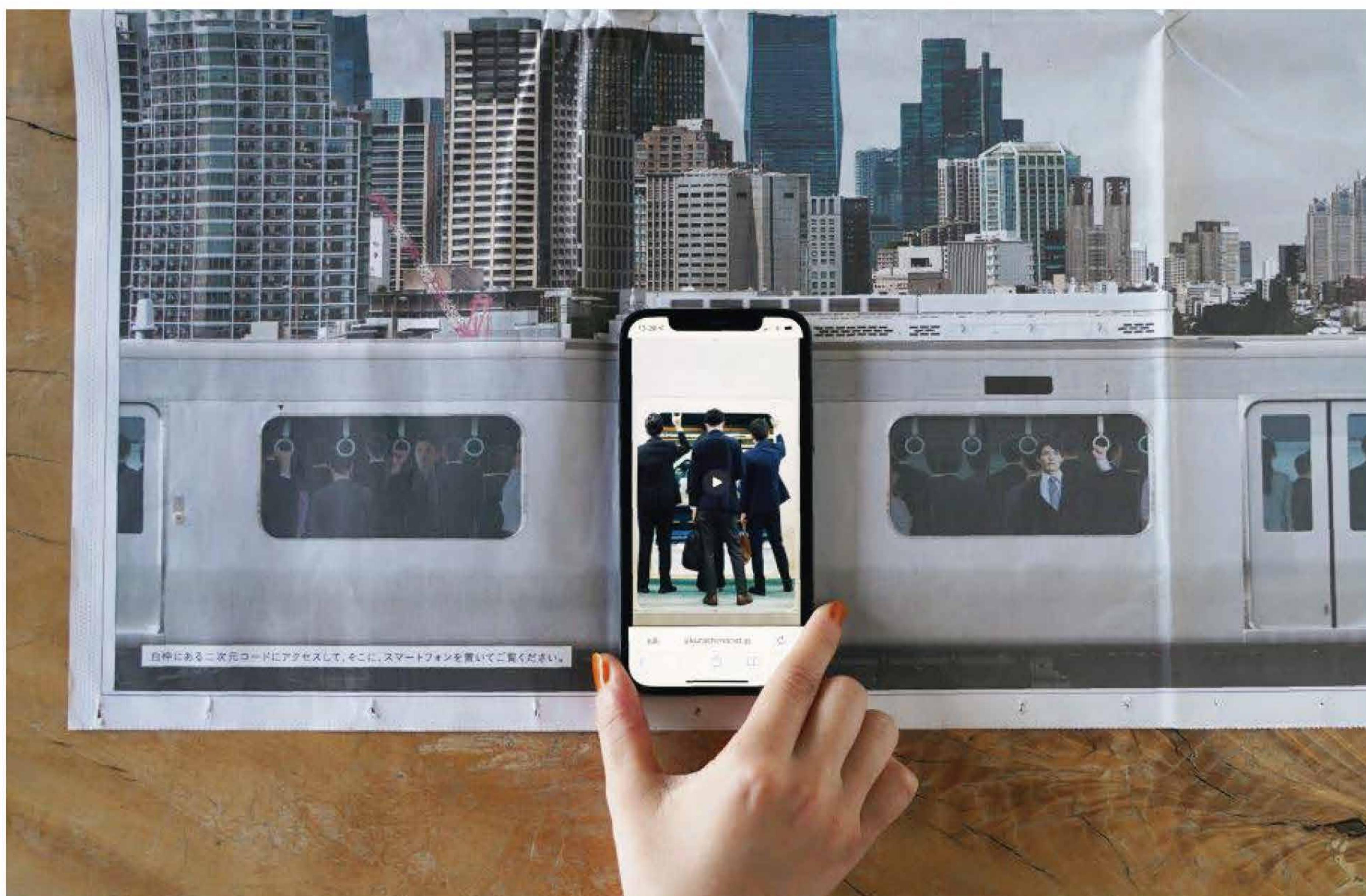
ラッピング紙面の使い方について

紙面の2次元コードをお手持ちのスマートフォンで読み取っていただき、白枠の部分にスマートフォンを置いてください。ムービーを再生すると、新聞紙面の連動し、動画が始まります。

[表面] 電車の出入り口部分とスマホの画面が重なります。

[中面] 物干し竿とスマホの部分が重なります。

※現在は、紙面からの動画視聴が出来ません。島根県のYouTubeにて配信されています。



人口減少に打ち勝つ。笑顔で暮らす島根をつくる
島根創生
SHIMANE SOUSEI



こちらから
動画が見れます

親のひとことが
島根へ帰る
きっかけでした。



こちらから
動画が見れます

あの子の
ひとは
「帰ってもいいかな」の
サインです。



その“ひとこと”がきっかけでした

親と子のショートストーリー

都会で忙しい日々を送る子どもと島根で子を想う親。
離れて暮らす親子のお互いの気持ちが伝わった時、何を思うのか。



島根県・(公財)ふるさと島根定住財団



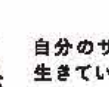
社会人のためのUターン・Iターンを応援しています。



Job Cafe 求職者の悩み解決をサポートしています。



いいね、島根の未来を応援しています。



島根県

スマホで二次元コードを読み取ると動画が再生されますので、
紙面に置いてご覧ください。紙面と連動します。



その“ひとこと”が
島根にUターンする
きっかけでした

親と子のショートストーリー

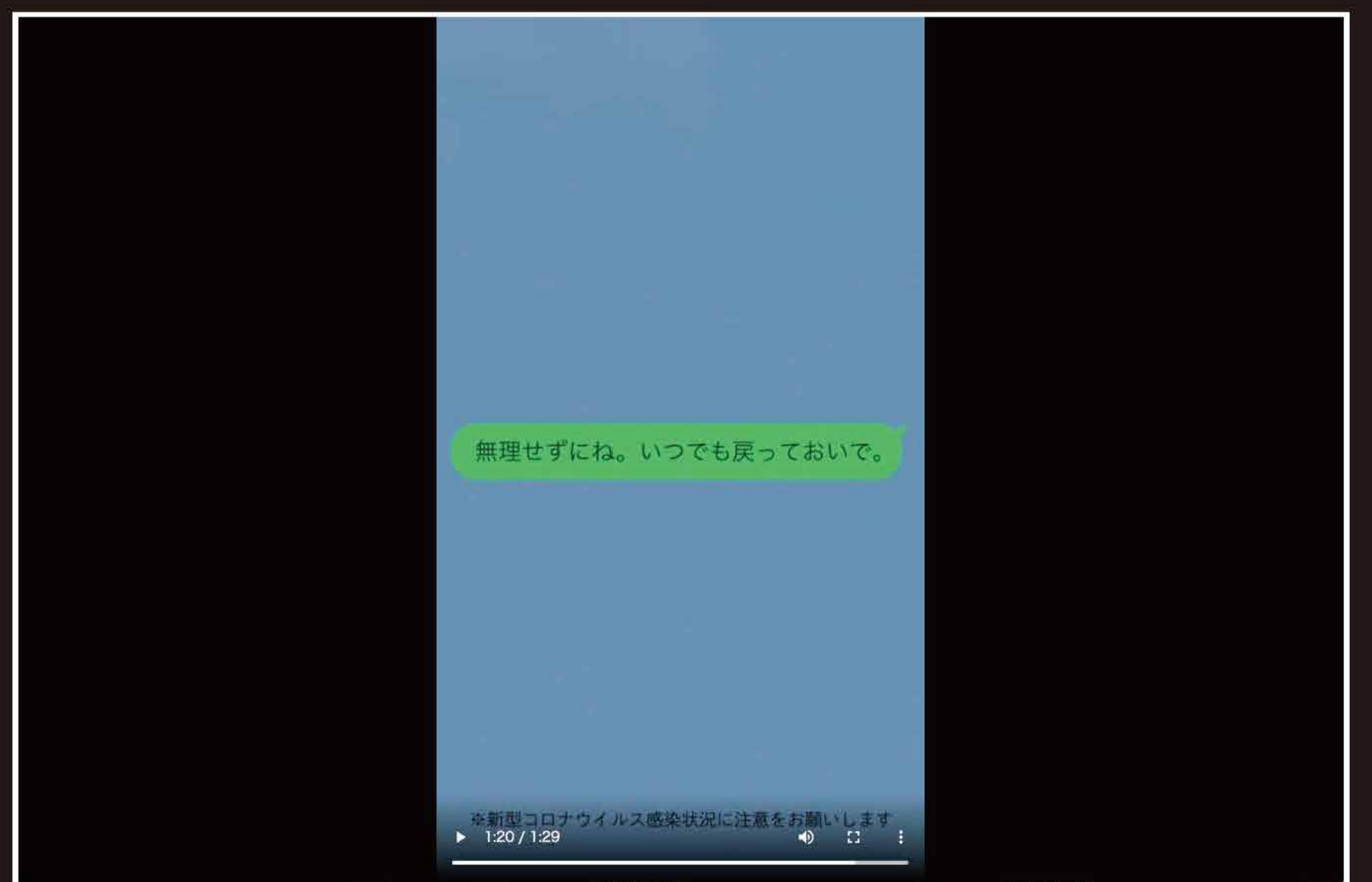
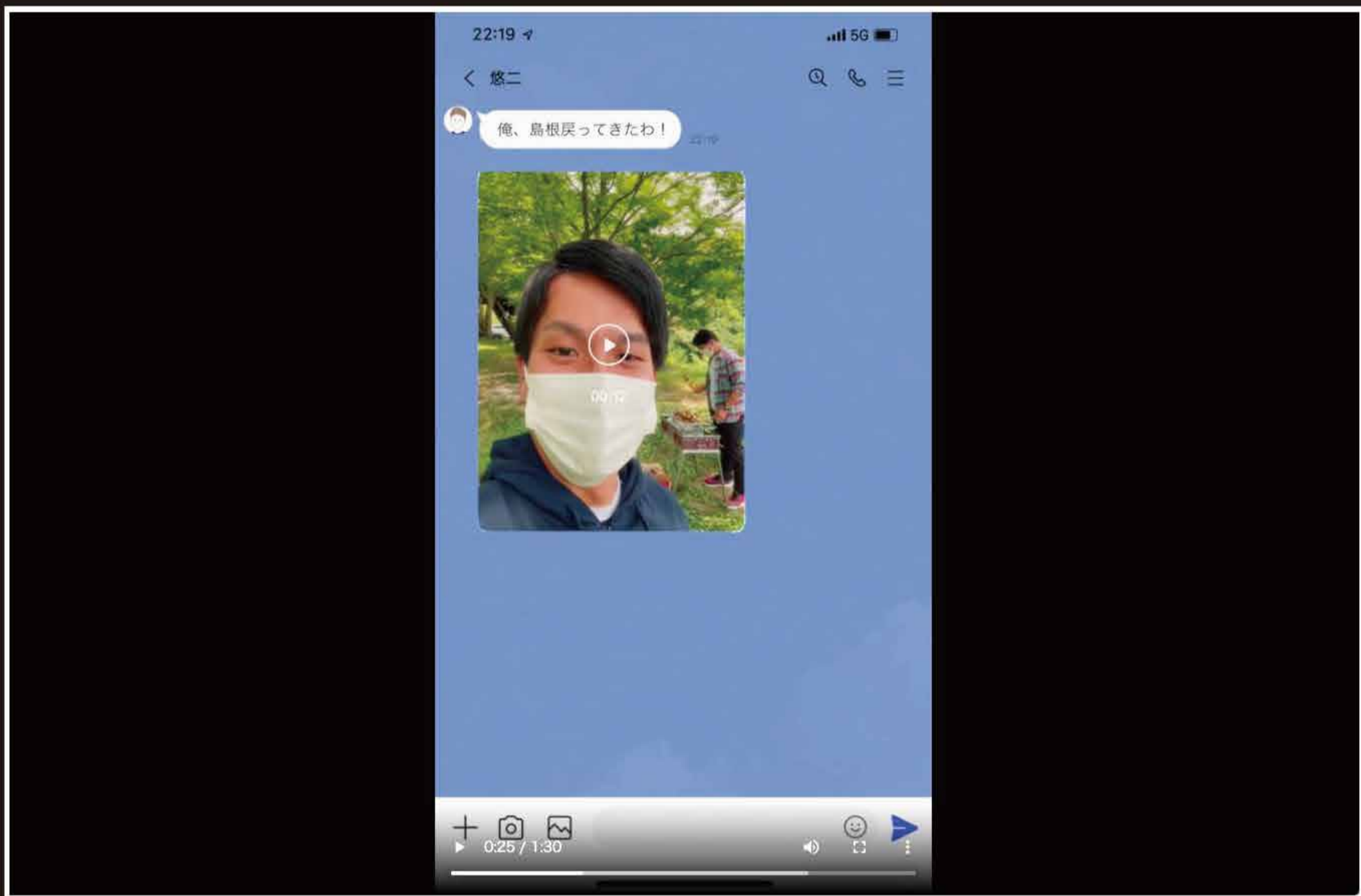
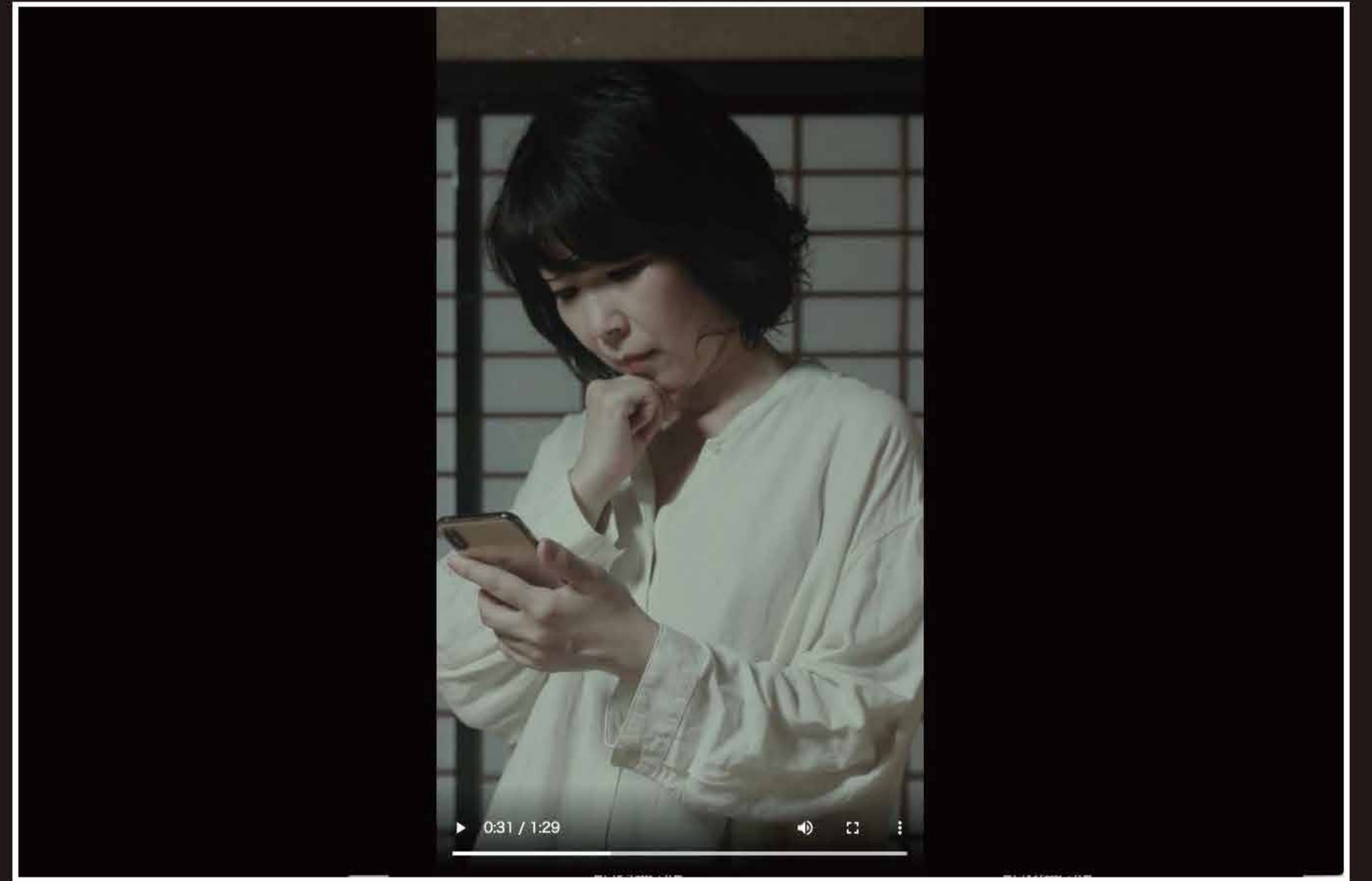
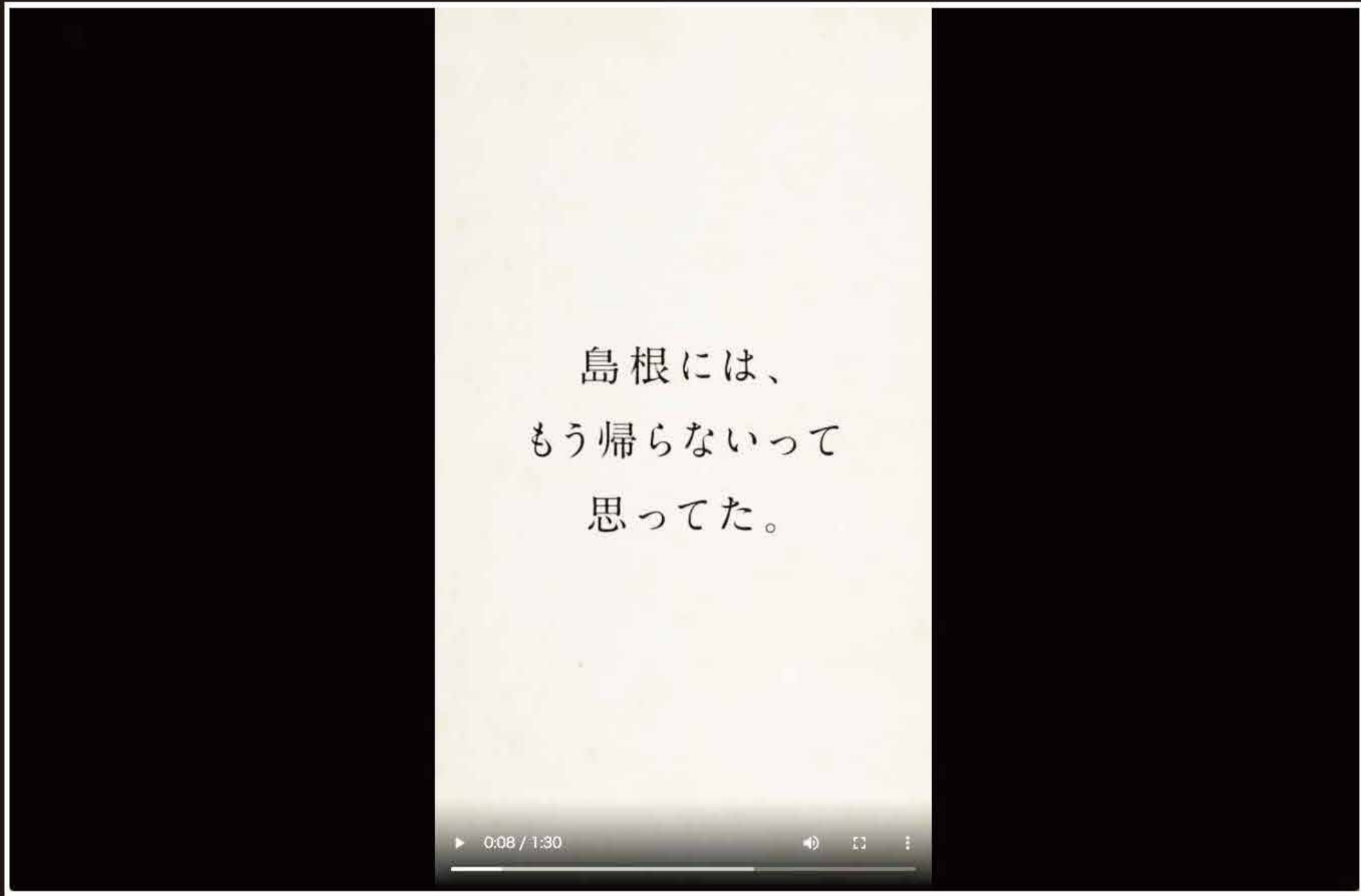
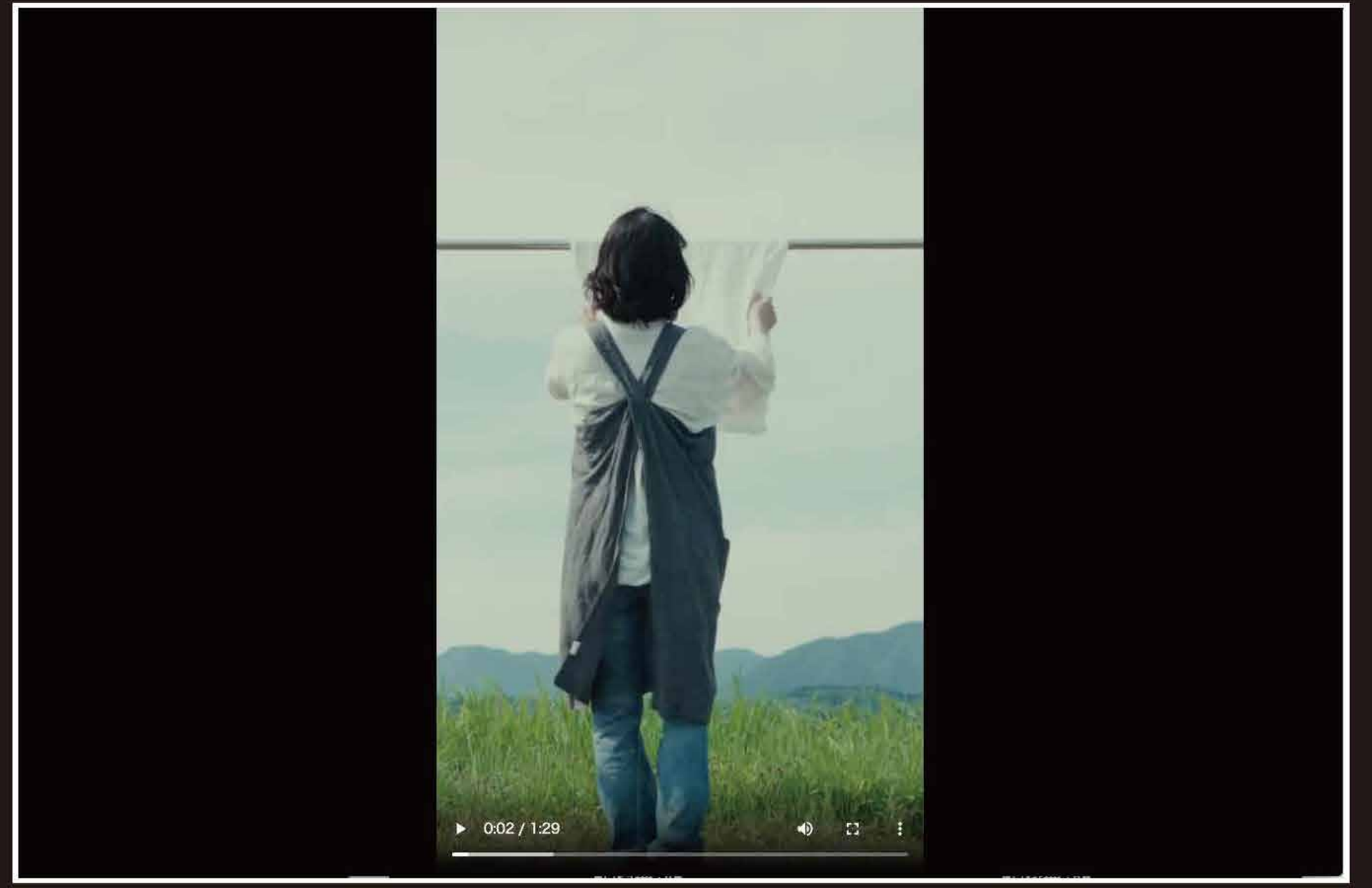
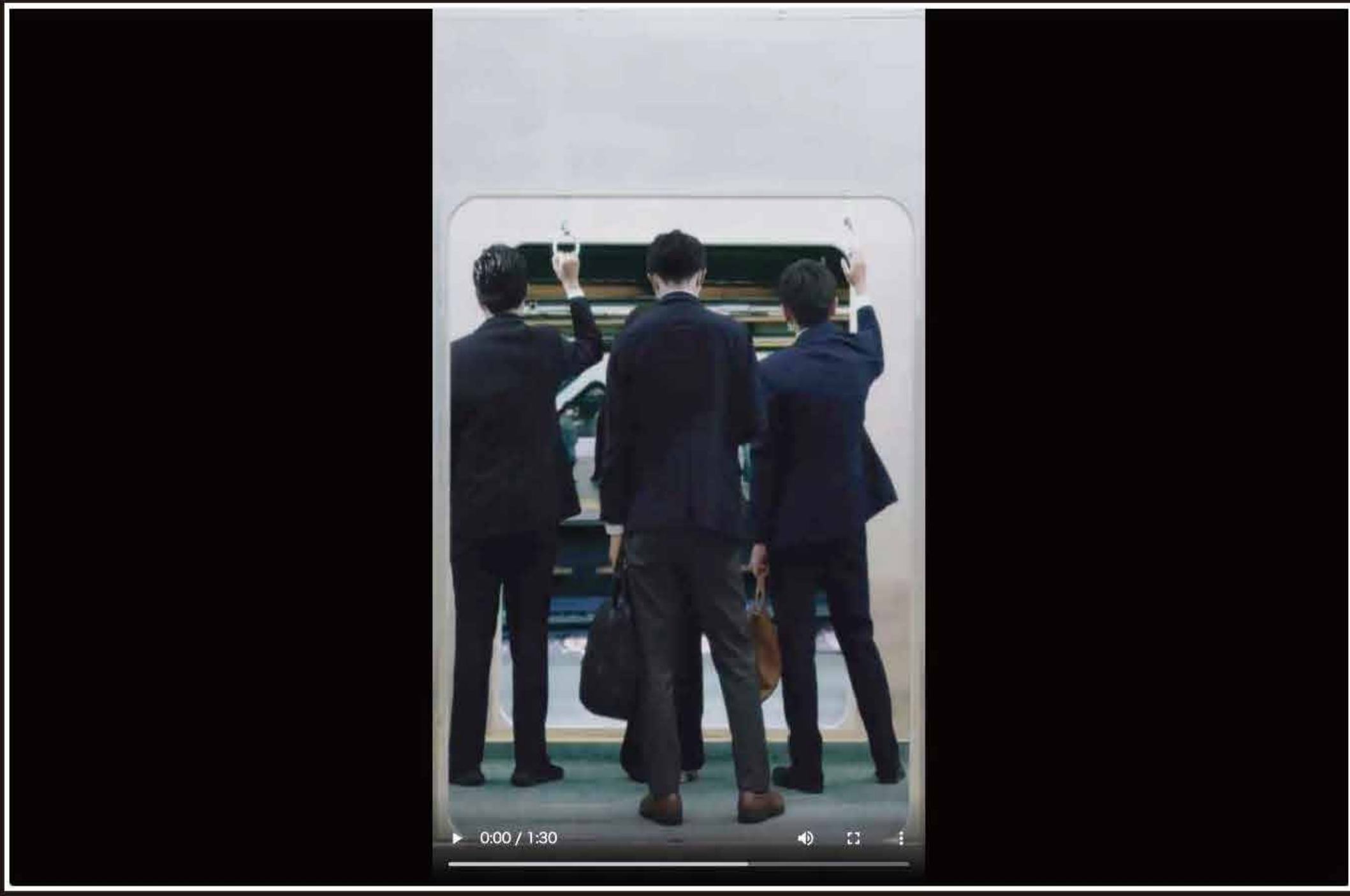
特別ムービー公開中 >>>



その“ひとこと”が
島根にUターンする
きっかけでした
親と子のショートストーリー

特別ムービー公開中 >>>





親からのひとこと Ver.



あの子のサイン Ver.